



XIMIXが実現したゼロトラストでの Google Workspace活用事例

日本情報通信株式会社 XIMIXチーム
Hideaki Tokida

Hideaki Tokida

Facebook: hideaki.tokida Twitter : @tokida



所属: 日本情報通信株式会社/ クラウドテクニカルエバンジェリスト



- ネットワーク設備・分析業務を経て監視ソリューション、多数の企業の運用基盤を構築。その後大手流通様配送システムの移行から運用に PMとして従事。同顧客の AWSを利用したマルチクラウドプロジェクト (2013-2014年)を実施。
- 2014年よりIBMクラウド(旧SoftLayer)の普及に務めると共に弊社クラウド案件のリードアーキテクトとして従事(2015年保険業様 iOS案件のコンテナ化, 2016年製造業様 OpenShiftシステム, 2017年Kubernetes移行案件など) 2018年から Google Cloud パートナーとして Google Cloud 案件を推進
- IBMより IBM Champion for Cloud を受賞 (2017, 2018, 2019)
- 2016年- クラウドアーキテクト・エバンジェリスト
- 2019-2020年 自社基盤を Google Workspaceへ刷新



エンジニア活動

- IBM Cloud Community (主催) PaaS、Node-RED、Serverless 周りのコミュニティで活動中。雑誌等での執筆活動の実施



本資料の内容

本資料の内容

社員が自宅環境から安全、快適、容易に仕事ができる環境を整える。

- 従来のセキュリティ基準を継承しつつ実現
- 従来よりも認証周りは強化しSaaS等適応範囲が拡大

半年でXIMIXが実施してきた内容のご紹介と導入効果

- テレワークが中心となりこれまでの経験が活かせない実際の活動状況をデータとして取得し可視化を実施(これからの施策に活かす)

コロナ禍で変わりゆく環境 環境変化と情シスの対応

働き方改革からWithコロナ時代の対応へ

弊社の移行の背景

IBM Domino Verseのサービス停止. 2019年秋から移行を検討し2020年1月よりGoogle Workspaceへの移行を開始



2020年1月から6
月に移行完了

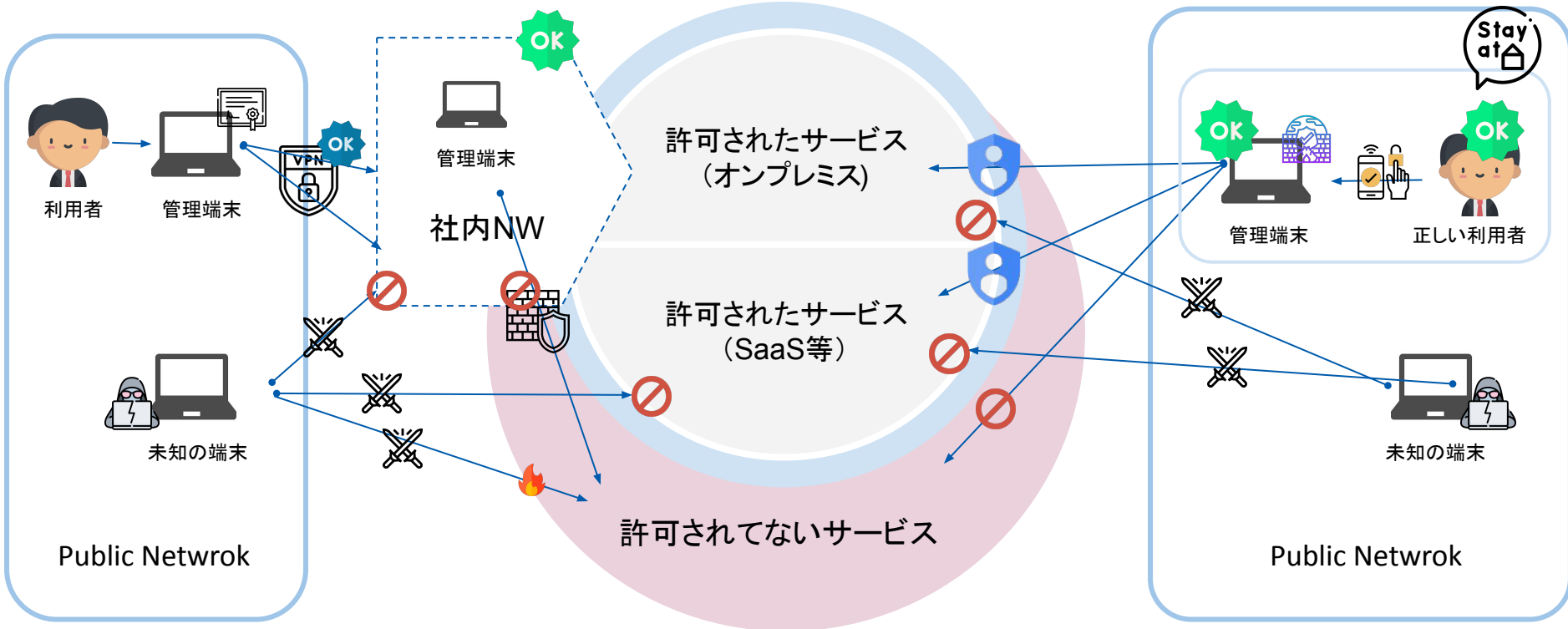
Withコロナ

2020年3月世界情勢が変わりGoogle Workspaceの導入計画も大幅に修正。急遽全社員にID発行を行い研修ともなく段階的にGoogle Workspaceを展開。2020年6月には主要な機能は社員が利用(特にGoogle Meetは当初より大活躍)



端末環境が激変! リモートは1割未満から7割に

Withコロナ時代に突入し社員の環境は社内ネットワークからパブリックネットワークに変化。



90年代から続くオンプレミス中心から、クラウドを中心とした何処からでも利用できる環境へ



弊社の検討する短・中期のインフラ投資

許可されたサービス
(オンプレミス)

許可されたサービス
(SaaS等)

許可されていないサービス

自社システムの脱VPN化

Google Cloud Identity Aware Proxyを利用

SSL-VPNの縮小、基幹業務システムのクラウド化、柔軟なクラウドへの接続環境の整備

認証統合(セキュリティ基準統一)

Google Cloud Identity SAML認証を利用

未知・既知への脅威対応

CASB製品を導入し端末が被害者・加害者にならないように制御・監視を実施

Netskope, Zscaler等の製品を利用し端末セキュリティを補完



ID基盤



認証基盤を刷新

従来独自で開発してきたID基盤をGoogle Identityに統合し、IdPとして他システム連携すると共に、認証を強化

SaaSという自社制御出来ない基盤も ID認証(委任)という仕組みにより透過的に一元管理する+承認にコンテキストをもたせる



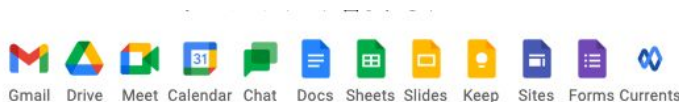
テレワーク下における生産性向上 Google Workspaceの状況

Google Workspace Enterprise Plusのメリット

今回弊社では、旧Google Gsuite Enterprise プランで導入

- Context Aware Access (IaP) の利用
- Google Workspace内のデータのDWH(BigQuery)連携
- Google Workspace内のデータの可視化(Work Insights)の利用

データを分析し今後に活用したい！



最も人気のアイテム

Business Starter

¥680 JPY

ユーザーあたりの月額

Business Standard

¥1,360 JPY

ユーザーあたりの月額

Business Plus

¥2,040 JPY

ユーザーあたりの月額

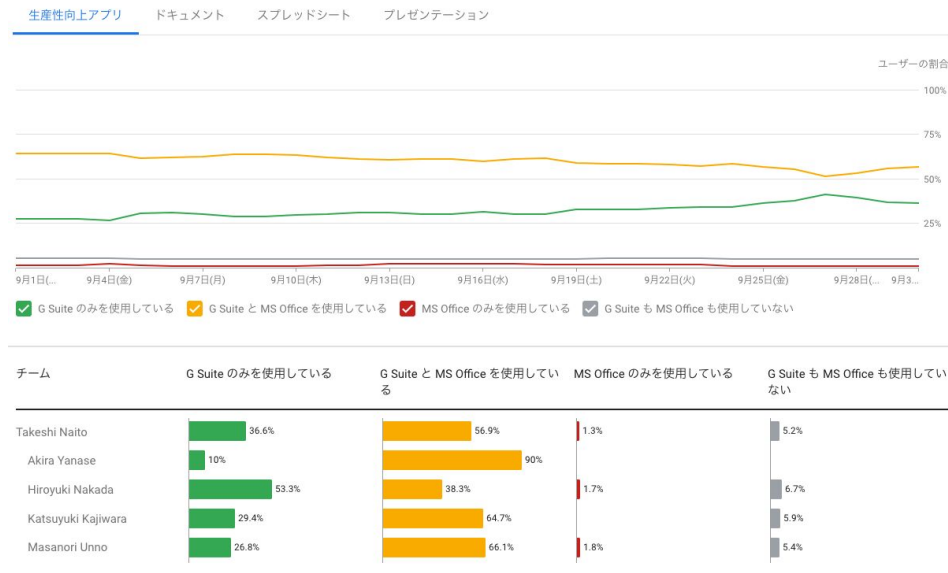
Enterprise

料金に関するお問い合わせ

Work Insightsで現在スナップショットを確認

各組織・チームでどの様にGoogle Workspaceが利用されているかを簡単に可視化して参照する事が可能

本格的に分析をしたい場合にはBigQueryを利用することを検討



例えば、どのチーム間でコラボが多いか

この結果を次のアクションへ！

Takeshi Naito 内のチームの共同作業の状況

次に属するユーザーの割合 (%)



この値から分かることは・・・

部門内のやり取りを示したもの

(カレンダーやドキュメントなどを共同で利用したことがあるアカウント数をGoogle Workspaceを利用可能なアカウント数で割った割合)

見方が難しいのですが以下のような感じです

梶原さん→中田さんへの連携が非常に高い

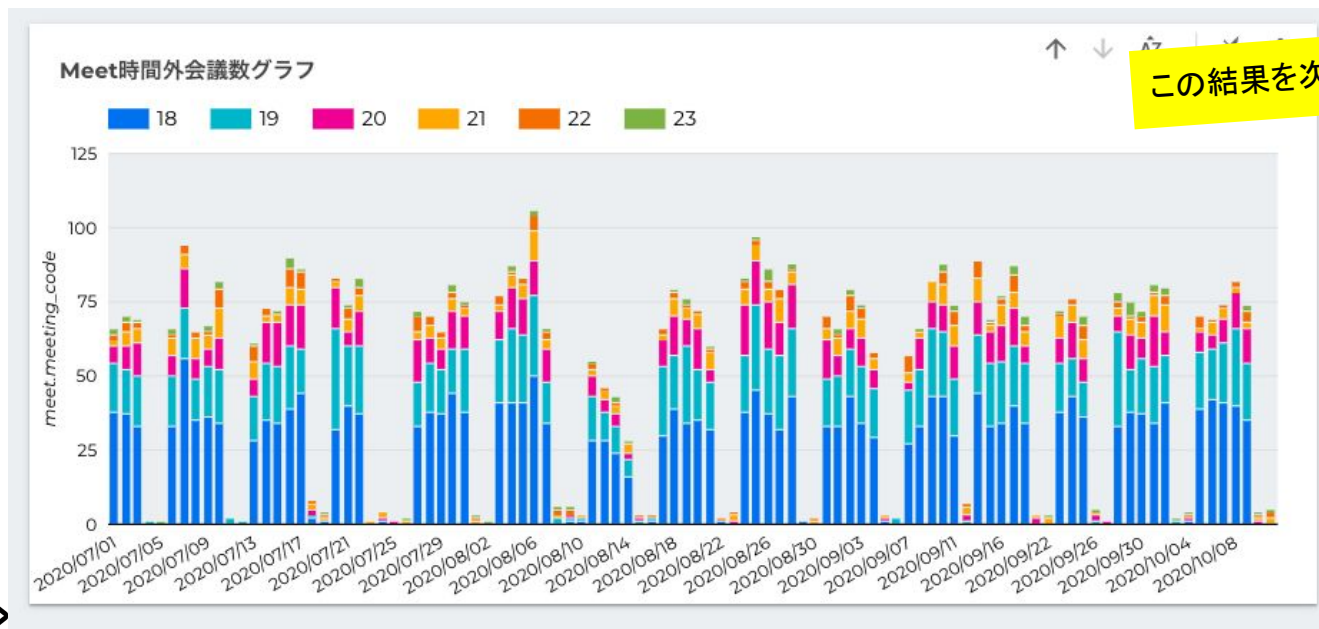
海野さん→他チームとの連携が低い

梁瀬さん→全チームへまんべんなく

	中田	梶原	海野
中田		63%	65%
梶原	94%		65%
海野	60%		

もっと深い分析や過去の履歴をみたい

Google Workspace内のアクティビティと利用状況をBigQueryにExportすることが可能です。以下の例は、時間外での会議数の統計情報です。



この結果を次のアクションへ！

データドリブンな施策が出せるように

テレワークになりこれまでの経験としての知識(常識)が変化してくると予想されます。社員の行動、また結果への影響などもどういったことが理由であるかはこれからの調査であり継続的なトラッキングが必要です。

社員の多くがGoogle Workspaceを利用することで、より傾向や結果を数値的に捉え、次の変化に対応をしていくことが重要となります。



まとめ

今日のまとめ

社員が自宅環境から安全、快適、容易に仕事ができる環境を整える。

- 従来のセキュリティ基準を継承しつつ実現
- 従来よりも認証周りは強化しSaaS等適応範囲が拡大

半年でXIMIXが実施してきた内容のご紹介と導入効果

- テレワークが中心となりこれまでの経験が活かさない実際の活動状況をデータとして取得し可視化を実施(これからの施策に活かす)

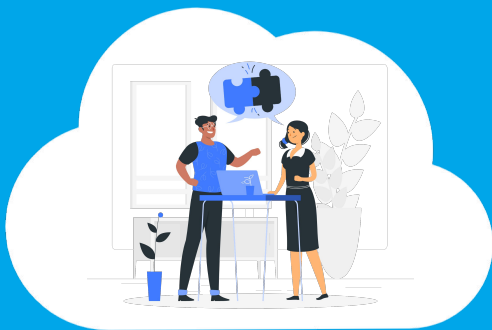
今日のまとめ - Next Action

環境が整えば..

- データ(端末のデータはどの様にあるべきか)
- 会社資産の管理とデプロイ(VDIからChromebook等の検討)

データが整えば..

- Withコロナ時代、どの様に仕事をしていくことがSlerとして最もパフォーマンスが良く社員が幸せに働くことができるのか
- 働き方を変えていくための進化を続けるには(ストリートスマート社のご協力もいただきながら現在も模索中)



各種お問合せ先

E-Mail: contact_ximix@niandc.co.jp